

地域全体で子どもたちを育む

～菊キクネットの取組について～

【下関市 菊川中学校区】

地域の概要

下関市菊川町は菊川盆地に位置し、その中心付近に人口が集中しています。周囲には華山や中山溪をはじめとする広大な山々があり、また、町の中央で南北に流れる木屋川と東西に流れる田部川が合流し、豊かな田園地帯が広がっています。地域の人々の学校に対する関心は高く、協力的な地域です。

人口	8,079人	
世帯数	3,237世帯	
対象校及び 児童生徒数	菊川中学校	228人
	豊東小学校	210人
	岡枝小学校	127人
	檜崎小学校	85人

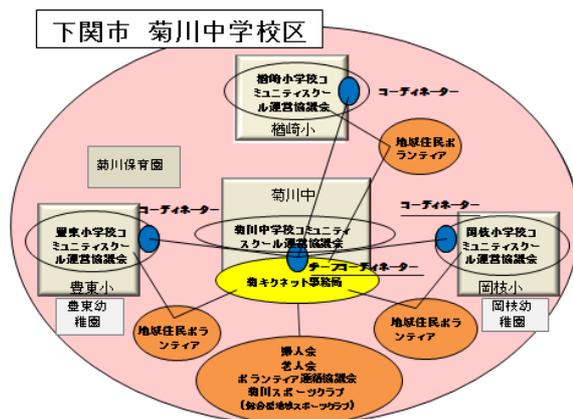
組織の内容

学校現場における教職員の業務量の増加に伴う多忙感の解消、きめ細かな指導を行うための時間の確保、また、地域住民の自己実現や生きがいをいづくりにつながることを期待し、一昨年度、ふるさと下関協育ネット「菊キクネット」を設立しました。

設立当初は、菊川中学校内のみで組織され、主な活動も中学校内におけるものがほとんどでしたが、昨年度から、幼児期から中学校卒業程度までの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援する、つまり、「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、中学校だけでなく、地域にある3小学校を含んだ枠組で展開しています。

具体的には、菊川中学校内に事務局を設置し、そこに総括的な役割をもつチーフコーディネーターを配置しました。また、それぞれの小学校にもコーディネーターを置き、各学校のニーズの把握と地域人材の調整を行っています。チーフコーディネーターは地域の実情を理解されている社会福祉協議会の方にいただいています。

菊川町では、以前から各学校のニーズに応える小学校ごとの応援団が存在していました。この既存の応援団を解体、再編するのではなく、今までどおりの形で応援を続けてもらっています。その上で、チーフコーディネーターと各学校のコーディネーターが連携して既存の応援団と応援団をつないだり、新たな応援団を探したりして、新しいニーズに応えることができるようになりました。支援対象が1中学校3小学校になったことで、地域住民にとっても活動場所や活動機会が増え、教育力を発揮する場が広がりました。



特色・重点的な取組

今年度「菊キクネット」で重点的に取り組んだのは、学校からのボランティア活動です。「ふるさと下関協育ネット事業」によって、地域から支えられていることを実感するようになった生徒に、ボランティアとして積極的に地域へ出て行こうとする意欲が醸成されつつあります。それまで、学校のニーズに応じた応援団を学校に派遣することが業務だったコーディネーターが、生徒のボランティア先を探す業務も担うようになりました。ボランティア祭で出店を手伝ったり、文化産業祭で共同募金のボランティアをさせてもらったりすることで、生徒の役立ち感、地域への所属感が一段と高まっています。サマースクールで小学校6年生に勉強を教えるという体験も、中学生の自尊心の育成とともに、小学生の「菊川中学校へ入学して勉強したい」という意欲につながりました。

主な活動の紹介

○菊川中学校

- ・環境整備…花壇の整備、除草作業
- ・学習支援…試験監督補助、サマースクール個別指導
調理実習補助、映画上映（道徳教育）



菊川中サマースクール

○豊東小学校

- ・環境整備…剪定作業、ふれあい広場の整備（開校 140 周年記念事業）
- ・学習支援…ゲストティーチャー（生活科、総合的な学習の時間等）
- ・その他 …紙芝居や昔遊び、集会活動（焼き芋）の支援



豊東小焼き芋集会

○岡枝小学校

- ・環境整備…アスレチック補修、剪定作業、華山登山道整備
- ・学習支援…米作り、芋作り、しめ縄づくり、クラブ活動



岡枝小森林体験

○檜崎小学校

- ・環境整備…剪定作業、草刈り作業、草引きボランティア
- ・学習支援…ゲストティーチャー（生活科、総合的な学習の時間等）
サマースクール個別指導
- ・その他 …学校行事の際の託児、図書ボランティアによる読み聞かせ、
保護者同士のよりよい関係づくりを促進する家庭教育学級の講師及び講師の紹介



檜崎小高齢者訪問

○下関市PTA連合会研修会での託児ボランティア

○コーディネーター連絡会議（1 中学校 3 小学校コーディネーター）

成果と課題

「ふるさと下関協育ネット」のおかげで、小・中の連携が一層進みました。サマースクールでは、小学校 6 年生の指導を中学校 3 年生が行い、中学生の指導を地域の方と小学校教員が行うようになったことは大きな前進です。「学習会で教えた生徒に図書館で声をかけられて感激しました」と地域の方に感謝され、こちらが感激したことも。小学校でも、環境整備活動の充実はもとより、多くの地域住民と授業等でかかわる機会が増え、いろいろなことを学ぶことができました。地域にとっても、児童とのふれあいの中で、楽しみややりがいを実感することができました。「子どもに本を読んであげたい」「こんな映画を見せたい」という地域の声から始まった読み聞かせや映画の上映会（この映画を題材に中学校では全校道徳を実施）など、地域発信による支援活動が広がっています。

支援対象が 1 中学校 3 小学校に広がったことで、地域住民の教育力を発揮する場も広がりました。何よりも「ボランティア大好き」という中学生が増えました。この流れに乗って、地域に支えられる学校から、地域と支え合う学校へ脱皮することが今後の課題です。

今後の取組

この 3 年間に地域で学校を支える仕組みができ、今まで学校ごとで行っていた取組に他校の応援団の方も参加する等、学校の枠を越えた地域と学校との取組も増えつつあり、小・中学校が連携して行う活動も増やしたいと考えています。来年度は、菊川町全体で子どもを育てることをめざして、菊川コミュニティ・スクール運営協議会が立ち上がります。今後は、この運営協議会に「菊キクネット」を置き、小・中学校に加え、地域と幼稚園、保育園を支援の対象にした活動を展開したいと考えています。